

## キリ

牧 幸 男

12月、一年の締めくくりの月になり、なんとなく慌ただしさを感じるようになる。日もだんだん短く、寒さも日毎に厳しくなってくる。一年の思い出と反省を考える月である。伝承では言い回しの始めから終わりまでを「ピンからキリまで」と呼ぶことがある。花札で12月にキリを採用しているのは、「ピン(1月の松)」から「キリ(12月の桐)」が要因と言われている。12月号に桐を選んだのは、キリ(切り)が一年の最後と思ったからである。何故冬に咲かない桐を選んだ理由は、単純に「これっきりから取って、桐を最後にした」からである。一方で、実用的な面だけではなく、高貴な象徴という意味で花札の最後を飾るに相応しいと考えたのである。

キリ科の桐は世界各地に生育しているが、原産地は揚子江流域や韓国の鬱陵島と言われている。我国では、大分・宮崎県境の山岳地帯に自生地があると言われているが、はっきりしたことは分かっていない。現状の桐は、野生はあまり生育せず、庭や家の周辺の畑で見る栽培種が多い。桐は落葉高木、日当たりの良いところを好む性質で、短期間で早く生長する。高さ10~15m程度に成長し葉は対生、長い柄があり、広い卵形で、両面に粘り気のある毛が密生している。初夏枝の頂きに、大きな淡い紫色の筒状鐘形の花が咲く。花期は7月頃で、果実は黄色い卵形で先端がとがり、熟すと2裂し、翼のある小さな種子を数千個まき散らす。アメリカ合衆国では、観賞用に輸入したものが野生化し、伐採しても根株を残すと旺盛に繁殖する外来種として、駆除をすることもある。



キリの花



キリの果実

同種の植物に台湾ギリ(花が白)、九重ギリ(花が淡黄色)、朝鮮ギリ(朝鮮半島の栽培種)等がある。他に、キリの名前がつく植物に、樹皮が緑色の梧桐あおぎり *Firmicalla sinaplex* や暖地を好む油桐がある。梧桐は葉がキリに似るオギリ科の植物で、油桐 *Verinica cordata* はトウダイグサ科の植物で別種である。

この木は、成長が早い事から、20年もすると伐採できるので、江戸時代から女の子が生まれると桐の木を植え、嫁入り道具にする習慣があった。嫁入りの時、この木を切り倒し、桐箆箆など嫁入り道具を作って持たせたからである。私の父も、姉が生まれたときキリの木を植え、嫁に行く時その木を切り倒した。その折、父が私に「お前がこの木に傷をつけなかったら、もっと高く売れたのに。」と言った言葉を覚えている。いたずら盛りの頃、桐の木に登るため、なたで傷をつけたからである。わが国の桐の使用量は多いが、国内産は需要の1割を満たすに過ぎず、中国、台湾、アメリカなどからの輸入に頼っている。桐の木は、風あたりの弱い肥沃な土地を好み、密集を嫌うため住宅の周りや畑地等の小面積が生育の条件である。最近、生育条件に合う土地が少なくなり、栽培が減少しているのが原因らしい。

昔は大火が多く、火災の折重宝がられた理由は、桐は火災の折、吸湿性が高く燃えにくく、桐箆筒内の着物は無事だった、桐は埴いので桐箆筒を担いで逃げる事が可能、水害には埴くて水に浮きそのまま流されて、中の着物が無事だった等の説がある。

昔から桐、菊、桜はわが国を代表する植物として尊重されてきた。先ず、宮廷の副紋（五七桐紋）、国章は桐となっている。現在でもパスポートには桐、菊、桜がデザインされ重要視されている。また、国の表彰状や委員の辞令に、氏名の上にキリ紋の透かしが使われている。又、500円硬貨にはキリを採用している。桐紋は花の数により五七と五三の桐に分けている。前者は皇室で使われ、後者は功績があった臣下に下賜する紋である。

中国では、桐について、王劉安（<sup>りゅうあん</sup> BC179~122年）が著した『淮南子』の説山訓に桐の葉について「見二葉落一、而知二歳之将一暮」の記述があるとある。これは一葉の落ちるを見て、歳のまさに暮れんとするを知るという意味から「一葉落ちて天下の秋を知る」、あるいは「一葉の秋」の言葉が生まれている。「桐の花が見事に咲くと、その年は冷害」という言い伝えがある。

桐に古くから身近の植物であるが、万葉の時代にはアオギリと混同されて詠まれることが多かった。

桐の花 露のおりくる <sup>しのめ</sup>黎明に うす紫の しとやかさかな 木下 利玄

いつとなく いとけいなき日の かなしみを われにおしへし 桐の花はも 芥川 龍之介

寝た犬に ふとんかぶさる 一葉かな 一茶

花桐の 琴屋を持てば 下駄やかな 正岡 子規

**植物名**の由来は、この木を切れば速やかに芽をだし、成長が早いので「切り」すなわちキリの名が、あるいは花が筒状花で、筒が桐に通ずるからと言われていた説、「台切り」で育成することが多いので、キリの名が生まれた説等がある。別名には白桐、花桐、<sup>さかえぎり</sup>栄桐、<sup>さかえ</sup>一葉草、榮等がある。所で、キリとアオギリはまったく異なる種であるが、中国で古くから両方に「桐」の字を用いているために混乱の要因となっている。『齊民要術』（532年~549年頃）ではアオギリを「青桐」、キリを「白桐」と呼び分けている。現在の中国ではアオギリを「梧桐」、キリを「泡桐」と呼ぶ。アブラギリも葉の形が似ているだけでまったく異なるが、おなじく桐と呼んでいる。

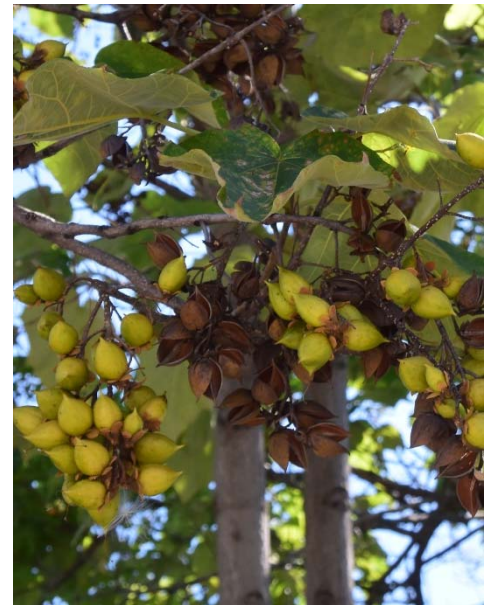
**学名**は *Paulownia tomentosa* で、属名はシーボルトの後援者であるオランダ女王 Paulowna の名前、種小名は綿毛が密生する意で、葉や花に毛が多いことによる。

**薬用**は、葉の生汁をいぼ取りや止血、利尿作用に、葉と枝の煎液は養毛、手足のむくみ、気管支炎、咳に、利用。果実は、気管支炎に、木質部は足の腫れに、根または根皮はリウマチによる足の痛み、腫れ物、痔に用いる。花を焼酎に漬けると、淡い紫の色と良い香がし、めまいや立ちくらみなどの解消に利用してきた。昔、懐戸を使っていた頃、黒焼きにし、この灰を使っていた。

**食用**には、花を天ぷら、未熟な小さな果実に数か所箸で穴をあけて揚げても良い。

**材質**は、日本では経済的価値は高く、林業の特用樹種である。材質が軽く、湾曲せず、防湿、防火の効に優れている点である。このため高級家具の箆筒や家具、金庫の内部、下駄、楽器等に広く利用されている。その他、桐炭は研磨用や火薬用、眉墨などにも利用されている。

花言葉は「高尚」である。



キリの果実

